

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Writing II		（ NCR14B ）
講義名（コード）	Writing II		（ NCR14BX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	To become comfortable writing more complex sentences and paragraphs.
全体の内容と概要	Textbook work, worksheets, and writing assignments.
授業時間外の学修	Writing assignments ranging from sentence work to essay composition.
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Can use prepositions of time.	Textbook Chapter 5. Time prepositions practice. Prepositions of time vs adjectives of frequency activities.
2	Can use before/after.	Textbook Chapter 5. Building compound sentences with before/after.
3	Can accurately organize paragraphs.	Textbook Chapter 5. Writing about someone's average day. Organize paragraphs and ideas.
4	Can use present progressive tense.	Textbook Chapter 6. Using present progressive tense activities. Using present progressive to form questions.
5	Can understand and use adjectives.	Textbook Chapter 6. Adjectives worksheet. Practice using and organizing adjectives.
6	Can write descriptive sentences.	Textbook Chapter 6. Write sentences and paragraphs to describe people, places, things, and events.
7	Can use there is/there are	Textbook Chapter 7. Practice using there is and there are in descriptions.
8	Can understand and use prepositions of place.	Textbook Chapter 7. Describing a room using prepositions of place and there is/there are statements.
9	Can use simple past tense sentences.	Textbook Chapter 8. Use past simple tense to write statements and questions.
10	Can understand the use of narrative writing.	Textbook Chapter 8. Write a simple narrative about personal experiences and events.
11	Can use should to express opinion.	Textbook Chapter 9. Write sentences using should to express personal opinion and advice.
12	Can write persuasive and argumentative paragraphs.	
13	Exam Prep.	Final exam review and Q&A.
14	Final exam.	Final Exam.
15	Feedback.	Final exam feedback and question time.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Ready to Write 1.
参考文献・資料等	Worksheets, notebook work, and writing assignments.
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Reading & Vocabulary II		（ NCR14D ）
講義名（コード）	Reading & Vocabulary II A		（ NCR14DA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	演習を通じて一文一文を正確に読み、長文読解力を身につける。
全体の内容と概要	演習ごとに必要な英文解釈を学び、長文になっても正しく読めるようにする。
授業時間外の学修	新しい単語・フレーズを復習し、音読練習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	主語と動詞を把握し、精読できるようになる。	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
2	主語と動詞を把握し、精読できるようになる。	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
3	準動詞の働きを理解し、精読できるようになる	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
4	準動詞の働きを理解し、精読できるようになる	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
5	関係詞を理解し、精読できるようになる	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
6	関係詞を理解し、精読できるようになる	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
7	接続詞を理解し、精読できるようになる	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
8	接続詞を理解し、精読できるようになる	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
9	比較を理解し、精読できるようになる	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
10	比較を理解し、精読できるようになる	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
11	重要語句を学び、精読できるようになる	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
12	重要語句を学び、精読できるようになる	精読・速読トレーニングを行い、読解力を身につける。
13	長文でも正しく読めるようになる	今まで習った精読の力を活かして、長文を読みこなす。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	入門英文問題精講
参考文献・資料等	英語長文ハイパートレーニング
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Reading & Vocabulary II		（ NCR14D ）
講義名（コード）	Reading & Vocabulary II B		（ NCR14DB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	We will study the topics of Sports Science, Communication, Behavioral Science and Psychology, building vocabulary skills and grammatical skills along the way.
全体の内容と概要	Class discussion, vocabulary and grammar building skills assignments and information gathering for the different types of essays.
授業時間外の学修	I don't expect them to do homework but they will have the option of doing research out of class in improve their knowledge. I will provide them time in class to research when needed.
履修上の注意事項等	During lecture and discussion times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times, they will be allowed to use their smartphones as study tools.

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Learning to identify supporting sentences and details	Reading and Vocabulary Practice, Unit #5 pp.92-100
2	Learning supporting words for sports activities	Reading on Sports Types and Vocabulary Usage, Unit #5 pp.101-104
3	Learning to identify prefixes with adjectives to show the opposite meaning	Identifying Supporting Sentences to the Topic Sentence, Unit #5 pp.105-113
4	Learning Vocabulary Usage for Article	Reading and Subject/Object Pronoun Agreement, Unit #6 pp.116-124
5	How to use vocabulary in discussion	Reading and Discussion, Unit #6 pp.125-132
6	Learning to write an opinion paragraph	Exercises using Infinitives of Purpose, Unit #6 pp.133-137
7	Learning to choose the correct definition of vocabulary	Reading and Discussion on Technology and Change, Unit #7 pp.140-148
8	Learning to find the correct definition	Reading and Discussion of a Personal Essay, Unit #7 pp.149-155
9	Being able to make a timeline	Working on Clauses of Before That/ After That, Unit #7 pp.156-161
10	Identifying facts from opinions	Reading and Discussion on Fear, Unit #8 pp.164-172
11	Can use adjectives that describe fear	Reading and Discussion on Evaluating Fear, Unit #8 pp.173-176
12	Learning contrasting ideas with 'however'	Working with Word Families, Unit #8 pp.177-179
13	Learning to connect similar sentences together	Working with Comparative Adjectives, Unit #8 pp. 180-185 & Test Review
14		Test
15		Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	'Q Skills for Success 1' by Sarah Lynn
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Grammer II		（ NCR14F ）
講義名（コード）	Grammer II		（ NCR14FX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	文法を理解することにより読解や会話での表現の幅を広げる。
全体の内容と概要	文章の構成、品詞の役割を学び、練習問題や会話練習を通して実際に使えるようにする。
授業時間外の学修	復習として練習問題を解く。また、音読練習をしてスムーズに口からできるようにする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	不定詞を理解できるようになる	不定詞の使い方の違いを理解し、会話で使えるように練習する。
2	不定詞を理解できるようになる	不定詞の使い方の違いを理解し、会話で使えるように練習する。
3	動名詞を理解できるようになる	動名詞の使い方の違いを理解し、会話で使えるように練習する。
4	動名詞を理解できるようになる	動名詞の使い方の違いを理解し、会話で使えるように練習する。
5	動名詞と不定詞の違いを理解できるようになる	不定詞・動名詞を理解し、会話で使えるように練習する。
6	分詞を理解できるようになる	分詞の使い方を理解し、会話で使えるように練習する。
7	分詞を理解できるようになる	分詞の使い方を理解し、会話で使えるように練習する。
8	比較を理解できるようになる	比較の使い方を理解し、会話で使えるように練習する。
9	関係詞を理解できるようになる	関係詞の使い方を理解し、会話で使えるように練習する。
10	関係詞を理解できるようになる	関係詞の使い方を理解し、会話で使えるように練習する。
11	仮定法を理解できるようになる	仮定法の使い方を理解し、会話で使えるように練習する。
12	仮定法を理解できるようになる	仮定法の使い方を理解し、会話で使えるように練習する。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Evergreen English Grammar 23Lessons
参考文献・資料等	マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編), Evergreen
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Grammer II		（ NCR14F ）
講義名（コード）	Grammar II		（ NCR14FX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	文法を理解することにより読解や会話での表現の幅を広げる。
全体の内容と概要	文章の構成、品詞の役割を学び、練習問題や会話練習を通して実際に使えるようにする。
授業時間外の学修	復習として練習問題を解く。また、音読練習をしてスムーズに口からできるようにする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	不定詞を理解できるようになる	不定詞の違いを理解し会話で使えるように練習する。
2	不定詞を理解できるようになる	不定詞の違いを理解し会話で使えるように練習する。
3	動名詞を理解できるようになる	動名詞の違いを理解し会話で使えるように練習する。
4	動名詞を理解できるようになる	動名詞の違いを理解し会話で使えるように練習する。
5	動名詞と不定詞の違いを理解できるようになる	不定詞・動名詞を理解し会話で使えるように練習する。
6	分詞を理解できるようになる	分詞を理解し会話で使えるように練習する。
7	分詞を理解できるようになる	分詞を理解し会話で使えるように練習する。
8	比較を理解できるようになる	比較を理解し会話で使えるように練習する。
9	関係詞を理解できるようになる	関係詞を理解し会話で使えるように練習する。
10	関係詞を理解できるようになる	関係詞を理解し会話で使えるように練習する。
11	仮定法を理解できるようになる	仮定法を理解し会話で使えるように練習する。
12	仮定法を理解できるようになる	仮定法を理解し会話で使えるように練習する。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Evergreen English Grammar 23Lessons
参考文献・資料等	マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編), Evergreen
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Pronunciation Speaking II		（ NCR14H ）
講義名（コード）	Pronunciation Speaking II		（ NCR14HX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	To become comfortable speaking English in social and professional situations.
全体の内容と概要	Textbook work, group discussion sessions, and one on one conversations.
授業時間外の学修	Discussion preparation and research.
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Can identify and understand signal words and phrases.	Textbook Chapter 5. Discussion and activities using signal words to communicate specific information.
2	Can understand intonation and expression of questions.	Textbook Chapter 5. Intonation practice with specific focus on questions. Group intonation activity.
3	Can ask and follow interview questions.	Textbook Chapter 5. Create interview questions and work in groups to practice asking and answering them.
4	Can express ideas in a marketing business setting.	Textbook Chapter 6. Introduction to sales language and product marketing language.
5	Can express and understand numbers.	Textbook Chapter 6. Practice to clearly communicate numbers including fractions, decimals, and monetary values.
6	Can gather statistics and express results.	Textbook Chapter 6. Activity to conduct a survey and communicate results.
7	Can understand and discuss ideas of leadership.	Textbook Chapter 7. Study and use specific language and ideas surrounding leadership.
8	Can understand the use of verb/noun phrases.	Textbook Chapter 7. Practice using verb/noun combinations to communicate an idea in multiple ways.
9	Can communicate instructions clearly.	Textbook Chapter 7. Plan and communicate instructions for a normal daily activity.
10	Can understand expressions of emotion and feeling.	Textbook Chapter 8. Discuss the language, tone, and expressions used to communicate emotional thoughts and ideas.
11	Can understand and use simple idioms.	Textbook Chapter 8. Idiom worksheet and practice using common expressions and metaphors.
12	Can communicate emotion and feeling.	Textbook Chapter 8. Discuss personal opinions and ideals that cause emotional response.
13	Exam prep.	Final exam prep and review.
14	Final Exam.	Final exam.
15	Exam feedback.	Final exam feedback and Q&A.

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	Q Skills: Listening and Speaking 1
参考文献・資料等	Worksheets, pronunciation and vocabulary materials, group project sheets.
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	スピーチⅡ		（ NCR14J ）
講義名（コード）	スピーチⅡ		（ NCR14JX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	For the students to be able to give a successful speech on a variety of subjects. They will learn how to gather information on the topic, organize into a speech form and deliver it in a professional way.
全体の内容と概要	Using references from various textbooks and handouts on technics to a speech, lectures from the teacher, discussion time and provided time in class for research needed to do their speeches.
授業時間外の学修	I don't expect them to do homework but they will have the option of doing research out of class in improve their knowledge. I will provide them time in class to research when needed.
履修上の注意事項等	During lecture and discussion times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times, they will be allowed to use their smartphones as study tools.

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Understanding the different types of communications in a language	Orientation and Introductions
2	Learning the different types of presentation speeches: impromptu, informative, persuasive and	Handouts on Speech types and examples.
3	Evaluating the different aspects of your listeners	Handouts on audience and lecture
4	Learn basic outline organization for all types of speeches.	Handouts on Outlining a speech and information gathering.
5	Learning the Do's and Don'ts of Body language doing a speech	Lecture and handouts on correct body language for a speaker.
6	Learning the Do's and Don'ts of the speakers voice	Lecture and handouts on correct usage of voice issues of the speaker.
7	Doing a speech	Students will give Speech #1
8	Learning how to critique your own speech.	Lecture and Handout on refining your speech.
9	Building your vocabulary for a specific type of speech.	Lecture and Handout on Vocabulary building
10	Doing a speech	Students will give Speech #2
11	Learning technics for making your speech more interesting	Lecture and Handout on an interesting speech.
12	How to recognize and adapt your speech in progress when it isn't going well.	Lecture and Handout on saving a bad speech.
13	Preparing for the Final Speech	In class time to gather information for speeches
14	Giving Final Speech	Test
15	Discussing Test	Test Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	N/A
参考文献・資料等	N/A
備考	N/A

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	通訳入門Ⅱ		（NCR14L）
講義名（コード）	通訳入門Ⅱ		（NCR14LX）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	通訳の基礎を学ぶ。通訳演習を通して、英語・日本語両方のコミュニケーション能力を向上させる。
全体の内容と概要	フリップボード、フラッシュカード、ロールプレイなど、通訳に必要なスキルを学ぶ。初めは聞き取りから始まり、発話することで「使える」表現として定着させ、クイックレスポンスができるよう訓練する。
授業時間外の学修	シャドーイングやリピーティングなど、自習できるものは普段から実践する。 既習内容を復習し、定着させる。
履修上の注意事項等	積極的な発話を心掛ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	数字を正確に訳せる	桁数の多い数字の読み方を確認し、正確に訳すトレーニングを行う。 英語の数字の聞き取りを練習する。
2	自然な日本語で訳せる (E→J Delivery)	自然な日本語になるよう意識して訳す。
3	be from～、start～ing、be good at ～の表現が通訳できるようになる	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
4	before～、after～を正確に使う、訳せる	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
5	There is/are～、have～を使える	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
6	would like to～、would like you to～の表現を使える	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
7	so, because, but, although を自然に訳せる	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
8	When, Where, What, Why, Who, Howを使える	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
9	have been to～、have ever～、have never～を使える	テキストのPassageの内容を理解し、例文をクイックレスポンスで訳す。 置き換え練習で類似表現の通訳にも挑戦する。
10	インタビューをする／受ける (グループワーク)	3人のグループを作り、一人が質問する、もう一人が質問に答える、もう一人が通訳する側になって練習する
11	できる (ペアワーク)	一人が短いプレゼンテーションを行い、もう一人が通訳する。
12	まとめ・復習 1	1年間で履修した内容のまとめ、実習課題 1
13	まとめ・復習 2	1年間で履修した内容のまとめ、実習課題 2
14	テスト	後期テスト
15	FB	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	どんどん話すための瞬間英作文トレーニング・ぐんぐん英語力がアップする音読パッセージトレーニング
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Listening Drill II		（ NCR14N ）
講義名（コード）	Listening Drill II		（ NCR14NX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	PIERCE WILLIAM TROY	時間数	30
成績評価教員	PIERCE WILLIAM TROY	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	The goal of the class is to have a clear and easy understanding of basic English conversation.
全体の内容と概要	We will be using a textbook, audio-book and multimedia to expose the student to a variety of English topics, levels and accents
授業時間外の学修	I don't expect them to do homework but they will have the option of doing research out of class in improve their knowledge. I will provide them time in class to research when needed.
履修上の注意事項等	During lecture and discussion times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times, they will be allowed to use their smartphones as study tools

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad All Year' Part #1 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
2	Learning the correct usage of the verb, 'let'	Sentences Using the verb 'Let', Unit 7 pp.30-33
3	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad All Year' Part #2 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
4	Knowing when to use the 'Make/Take'	When to Use 'Make' and 'Take', Unit 8 pp.34-37
5	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad All Year' Part #3 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
6	Can clearly recognize the usage of 'Come/Go'	Studying the Usage of 'Come' and 'Go', Unit 9 pp.38-41
7	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad All Year' Part #4 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
8	Learning to choose the correct words to show your need	When to Use 'Want' vs 'Need' in a Statement Sentence, Unit 10 pp.42-45
9	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad All Year' Part #5 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
10	Learning the level or degree of probability	Understanding the Differences between 'Can/Will/May', Unit 11 pp.46-49
11	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad All Year' Part #6 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
12	Learning how to use suggestion phrases correctly	Studying the Use of 'Must/Should/Shall', Unit 12 pp.50-53
13	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad All Year' Part #7 Comprehension, Vocabulary & Word Usage & Test Review
14		Test
15		Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	'Practical Listening Skill for English Communication' by Kaibunsha Publications & 'Frog & Toad Collection' audiobook by Arnold Lobel
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	中国語入門Ⅱ		（NCR14P）
講義名（コード）	中国語入門Ⅱ		（NCR14PX）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	就職時や中国人との交流、または旅行などでコミュニケーションができるようになる
全体の内容と概要	中国語のテレビや映画の鑑賞を授業に取り入れる
授業時間外の学修	校内の中国人留学生との交流を深める
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	第1課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
2	第2課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
3	第3課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
4	第4課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
5	第5課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
6	第6課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
7	第7課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
8	第8課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
9	第9課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
10	第10課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
11	第11課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
12	第12課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
13	第13課の本文、新出語句、ポイント を理解し、ドリルを解くことができる	単語、文法の確認、課題文の翻訳。ドリルによる練習問題
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テスト

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	表現する中国語
参考文献・資料等	初級会話テキスト
備考	生徒と先生で会話をする

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	芸術表現Ⅱ		（NCR14R）
講義名（コード）	芸術表現Ⅱ		（NCR14RX）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	1
授業担当者	小笠原 あやの	時間数	30
成績評価教員	小笠原 あやの	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	身近な素材やテーマから、自分なりに発想し工夫して「生活の中の芸術」を生み出す力を育む。 身の回りにある「芸術」に気が付き、生活を豊かにする感性を身につける。
全体の内容と概要	ワークショップ型の作品づくり。グループワークもあり。自分の作品を発表したり、自分以外の作品を鑑賞し、感想を述べるなど、クリエイティブなコミュニケーションを展開する。
授業時間外の学修	あり（状況による）
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	絵や工作が得意か否か、上手いか否かにかかわらず、工夫して前向きに表現しようとする姿勢を重視する。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	豆田は七や八のフイルムを選び、自分好みの作品を作ることができる。	タイルクラフトでオリジナルコースターづくり
2	キャラクターの役割や、マスキングについても考えることができる。	身近な商品のオリジナルキャラクターを考えよう①
3	〃	身近な商品のオリジナルキャラクターを考えよう②
4	日本日本の風物詩にふれて、自由な塗り絵を楽しむことができる。	狐のお面に色をつけよう
5	身近にある「フォント」を観察し、変化させることができる。	オリジナルフォントづくり①
6	〃	オリジナルフォントづくり②
7	削って癒される不思議な体験ができる。	スクラッチアート体験
8	糸材を楽しく組む合わせ、又持ちつを伝えるデザインを考えることができる。	クリスマスカードづくり
9	自分の成長や内面の変化に気がつくことができる。	今、一番好きなものをデッサンする①
10	〃	今、一番好きなものをデッサンする②
11	たつた1本の線が組み合わさり、想像もつかない作品になる体験ができる。	1本の線から生まれるアート体験
12	テーマを意識して写真撮ること、で、表現の幅を広げることができる。	街に出て写真を撮ろう。～冬の風景～
13	1年間のまとめとして、今まで体験した手法を用いて、記念に残る作品を作ることができる。	オリジナル時計づくり①
14	〃	オリジナル時計づくり②
15	〃	オリジナル時計づくり③

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	英語資格対策Ⅱ		（ NKT15D ）
講義名（コード）	英語資格対策ⅡA		（ NKT15DA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英検準2級以上に合格する。
全体の内容と概要	準2級取得のための対策と問題に取り組む。
授業時間外の学修	「でる順パス単」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	単語601～650 準2級の過去問題に挑戦する	自分の現在の実力を知り、後期に力を入れるべき箇所を知る。
2	単語651～700 / listeningの特徴 がわかるようになる	英検listeningの特徴を知り、問題に取り組む。
3	単語701～750/聞き取れないと ころが聞けるようになる	過去問のlisteningに挑戦し聴きとれない部分を重点的に繰り返し聞く。
4	単語751～800 準2級の過去問題に挑戦する	準2級の過去問題集からの長文を解き、自分の弱点を知る。
5	単語 801～850 / 長文の読み方や出 題傾向がわかるようになる	英検長文の特徴を知り、時間内に読む練習をする。
6	単語851～900 準2級の過去問題に挑戦する	後期最初の授業時と比較し、自分の進み具合を知り勉強法を考える。
7	単語901～950 / 作文の書き方が 理解できるようになる 1	文章を書く際の構成を学ぶ。
8	単語951～1000 / 作文の書き方 が理解できるようになる 2	与えられたトピックを使って自分の意見を書いてみる。
9	単語1001～1050 準2級の過去問題に挑戦する	listning・穴埋め・長文・作文を時間内に行う。
10	Speakingのテストの構成を理解 することができるようになる	Speakingのテストの構成を理解し、どのように受け答えするかを学ぶ。
11	面接の練習をし、自信をもって 受け答えができるようになる	面接の練習をする。
12	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	英検準2級でる順パス単、肘井学のゼロから英文法
参考文献・資料等	英検準2級過去問集（2025年度版）、英検準2級総合対策教本
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	英語資格対策Ⅱ		（ NKT15D ）
講義名（コード）	英語資格対策ⅡB		（ NKT15DB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	英検2級・準1級を取得する
全体の内容と概要	英検2級・準1級に必要な文法・語彙・熟語を習得し、それぞれの級の練習問題に取り組む。
授業時間外の学修	受験する級の語彙を増やし、問題集に取り組む
履修上の注意事項等	英検の試験日に合わせた対策をする

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	現在完了・過去完了を理解できる	現在完了形と過去完了形の違いを学習する/ 長文読解
2	受動態を理解できる	現在・過去・未来・助動詞がはいつた受動態を使えるようにする/ 穴埋め問題
3	分詞の基本を理解できる	現在分詞・過去分詞を使った後置修飾を学習/ 長文読解
4	分詞構文を理解できる	分詞構文の構造を学び自分で文章を作ってみる/ 穴埋め問題
5	2級・準1級の熟語を覚える ①	熟語の練習問題に挑戦してみる/ 長文読解
6	2級・準1級の熟語を覚える ②	熟語の穴埋め問題に挑戦する/ 長文読解
7	作文の書き方を理解できる	作文の書き方を学習した後、過去問題集からトピックを選び実践練習
8	リスニング問題の注意点等を理解できる ①	友人との会話・ビジネス・接客等の場面での受け答え練習/ 長文読解
9	リスニング問題の注意点等を理解できる ②	電話・説明文・アナウンスで使われるフレーズ、表現を学ぶ/ 長文読解
10	熟語の復習テスト	熟語の穴埋めテストをして期末試験に備える/ 長文読解
11	各級の過去問題を時間内で解けるようになる	決められた時間内で回答できるように時間配分に注意しながら問題を解く練習をする
12	各級の過去問題を時間内で解けるようになる	決められた時間内で回答できるように時間配分に注意しながら問題を解く練習をする
13	テストの対策	熟語・作文・穴埋め・リスニングの復習をする
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	英検準1級集中ゼミ（旺文社）・英検2級集中ゼミ（旺文社）
参考文献・資料等	英検2級過去6回全問題集/ 英検準1級過去6回問題集
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	異文化理解Ⅱ		（ NKT15H ）
講義名（コード）	異文化理解ⅡA		（ NKT15HA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	さまざまな国の文化・考え方を学んでお互いに教えあったり認め合うことができるようにする。
全体の内容と概要	各国ごとの冠婚葬祭・ジェスチャー・社会問題などのテーマについて意見交換や発表などをする。そうすることでお互いの文化の違いを教えあい、認め合うことができるようにする。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。
履修上の注意事項等	発表が多いので事前準備をしっかり行う事が重要です。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	異文化を理解する目的を改めて知る	これこれの事例の学習目標と提示し、異文化を理解することの必要性、異文化理解
2	異文化摩擦について理解できる	できていない場合などもなるとが空高く異文化摩擦を学べる機会があるがら
3	自分がわかりやすく、コミュニケーションがとりやすくなる方法を	異文化摩擦とはということについて学習していく。
4	知る	グループを作りジョハリの窓、学習スタイル、対立管理スタイル、異文化対応力について自分を数値的に理解する。
5	グループコミュニケーション、非言語コミュニケーションについて理解し、考察する	アイコンタクトの意味と受け取り方、表情が与える誤解、ジェスチャー、パーソナルスペース、時間などについてクラス内で意見を交換する。
6	様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することが	学生を国ごとのグループに分け、その国の催事について発表をするための準備をする
7	できる	催事についての発表
8	様々な国の生活についてわかるようになる	様々な国の人々の生活をビデオで見る。（家、街中の様子、仕事、学校の様子、休日の過ごし方など）各自興味がある国について調べてまとめる。
9	様々な国の生活についてわかるようになる	クラスメートに知ってもらいたい自分の国での生活の様子を調べてまとめる。
10	様々な国の生活についてわかるようになる	自国の生活について国別に分かれて発表する
11	世界の衣食住の歴史について知ることができる	日本の食文化の歴史の紹介と世界の様々な国の食についてビデオで見て、自分の国と比べてみる
12	世界の衣食住の歴史について知ることができる	自国の衣食住の歴史について調べ、まとめる
13	世界の衣食住の歴史について知ることができる	衣食住発表準備
14	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
15	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
16	まとめと解説	今までの授業を通じてのまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	グローバルな時代を生きるための異文化理解入門・日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション
備考	なし

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコンピューティングⅡ		（ NKT15J ）
講義名（コード）	ビジネスコンピューティングⅡ G		（ NKT15JG ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター（株）、東京精電（株） 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	表計算ソフトExcelの基本操作・機能を習得し、実務への活用方法を学習する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 前期でWord・PowerPoint、後期でExcelを学習します
授業時間外の学修	操作環境がない学生がほとんどだと思いますので、メニューの操作方法、数式の入力など テキストや授業時配布されたプリントで復習してください
履修上の注意事項等	資格取得の意欲のある学生には、資格試験（MOS・日商PC検定）の練習もおこなっていきます

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず 単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Excelの基本操作ができる	Excelの基礎 起動→画面構成確認 新規作成→入力方法・オートフィル練習→保存
2	表の挿入・編集ができる 合計を計算できる	表の作成 表の作成・書式設定・SUM関数
3	グラフの作成ができる	Excel グラフ作成 (グラフの種類と効果・縦棒、円グラフの作成・書式の変更)
4	オートSUMボタンの関数を理解できる	オートSUMボタンの関数 (SUM・AVERAGE・COUNT・MAX・MIN) 学習 データよりグラフ作成
5	RANK.EQ関数で 順位づけと関数の挿入ができる	順位づけ (RANK.EQ関数) Fxボタンよりの関数の挿入・検索の仕方 相対参照と絶対参照のちがいと切り替え方法
6	ROUND・UP・DOWN関数で 端数処理の意味を理解できる	ROUND・ROUNDUP・ROUNDDOWN関数のちがいと桁数の設定
7	条件判定と比較演算子の意味を理解できる	IF関数を使った条件判定の入力の仕方、比較演算子の意味と使い方
8	関数のネスト方法を理解できる	3つ以上の条件判定、関数のネストの入力方法
9	VLOOKUP関数を活用した 効率的な処理方法を理解できる	VLOOKUP関数の構造と使用方法
10	表検索入力の方法を理解できる	VLOOKUP関数とHLOOKUP関数のちがい
11	並べ替えとフィルター データの検索と抽出を理解できる	並べ替えの設定方法・フィルターの設定と抽出
12	条件付き書式とテーブル機能 視覚的なデータの把握と管理できる	カラースケール・データバー・アイコンセット他の条件付き書式の設定 テーブルの作成と機能の利用方法
13	ピボットテーブルの作成 機能を使ったデータ集計ができる	ピボットテーブルの作成・データの集計の変更方法
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	30時間でマスター Office2021
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント、レベルに応じた資格試験の練習問題
備考	担当教員はIT業界での実務経験を活かし、Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	キャリアデザインⅡ		（NKT15L）
講義名（コード）	キャリアデザインⅡG		（NKT15LG）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】講師紹介後期の内容について説明、心構え 【演習】進路調査 Cam-J 進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】インターンシップについての復習 【演習】インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】キャリア面談 応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる（１）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる（２）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる（３）	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
7	在留資格制度、申請について理解できる（１）	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
8	在留資格制度、申請について理解できる（２）	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
9	就職内定先企業への提出書類について理解できる（１）	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
10	就職内定先企業への提出書類について理解できる（２）	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。（１）	【研修】研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
12	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。（２）	【入社前研修】入社時書類、労働条件（給料、時間、休日、勤務地） 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる。（１）	【日本の企業】１日、１か月、１年間の仕事の流れ 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【テスト】回収
15	まとめと対策	【テスト返却】フィードバックと解説 【振り返り】講義の振り返り、まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅡ		（NKT15V）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅡC		（NKT15VC）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本後能力試験N2の文法と語彙を学んでいく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自分の困った状況が説明できる 1	文法（～きり、どころじゃない、ものの、ことに）語彙（文脈規定第1回）
2	自分の困った状況が説明できる 2	文法（～にしては、ことか）、チェック、語彙（文脈規定第12、13回）
3	友達の話に共感して励ますことができる1	文法（～さえ～ば、ようがない、あげく）、語彙（文脈規定第14、15回）
4	友達の話に共感して励ますことができる2	文法（～もんじゃない、だけ）、チェック、まとめ問題
5	友達の話に共感して励ますことができる3	文法（～ばかりに、ことはない、にくらべて）、語彙（言い換え類義第1、2回）
6	友達の話に共感して励ますことができる4	文法（～ものか、というものよ）、チェック、語彙（言い換え類義第3～6回）
7	自分の状況や決意したことを友達に話すことができる1	文法（～ばこそ、ないことはない、だけ、もん）、語彙（言い換え類義第7、8回）
8	自分の状況や決意したことを友達に話すことができる2	文法（～わけにはいかない、のみだ、つもり）チェック、まとめ問題、語彙（言い換え類義第9、10回）
9	レポートなどの、これまでの経緯や状況の説明が理解できる1	文法（～から見ると、一方で、ことから、のみならず）、語彙（用法第1、2回）
10	レポートなどの、これまでの経緯や状況の説明が理解できる2	文法（～といった、にしたがって）、チェック、語彙（用法第3、4回）
11	レポートや論説文の説明が理解できる1	文法（～得る、に反して、に関して、反面）、語彙（用法第5、6回）
12	レポートや論説文の説明が理解できる2	文法（～上、つつある、に限らず）、チェック、まとめ問題、語彙（用法第7、8回）
13	ビジネス場面で社外の人との簡単な受け答えができる	文法（お見えになりました、ご～願えます、ご～上げ、と思います）、語彙（用法第9、10回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	TRY!日本語能力試験N2 ドリル&ドリル文字語彙
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	日本語資格対策Ⅱ		（ NKT16D ）
講義名（コード）	日本語資格対策ⅡB		（ NKT16DB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	榊原 倫代	時間数	30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	前半：読解問題を解くためのポイント、新出語彙を学び、実戦問題を解く。 後半：聴解問題を解くためのスキルを学び、様々な形式の聴解問題を解き、解説を加える。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	文章の仕組みを理解するために文章の違う点を理解する1	読解：【対比】ほかのものと比べる1 聴解：実際の試験を理解する1 課題理解・ポイント理解
2	文章の仕組みを理解するために文章の違う点を理解する2	読解：【対比】ほかのものと比べる2 聴解：実際の試験を理解する2 概要理解・即時応答
3	文章の仕組みを理解するために言い換えについて学ぶ1	読解：【言い換え】 聴解：実際の試験を理解する3 統合理解
4	文章の仕組みを理解するために言い換えについて学ぶ2	読解：【言い換え】 聴解：音声の特徴に慣れる
5	文章の仕組みを理解するために何を何にたとえているかつかむ1	読解：【比喻】 聴解：即時応答のスキルを学ぶ
6	J L P T形式の問題を解くことができる。	JLPT模試 JLPT模試
7	J L P T形式の問題を解くことができる。	JLPT模試 F B JLPT模試 F B
8	指示語を指している言葉を説明できる。	指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や対象語を探すことができる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、文の内容を説明できる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	その前後をみて、言い換えてい る言葉を見つけることができ る。	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむこ とができる。	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くこ とができる。	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	完全マスター読解N2 完全マスター聴解N2
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネス英語Ⅳ		（ NKT24B ）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅣB		（ NKT24BB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、スピーキングの練習を中心にコミュニケーション能力向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	【海外出張】ホテルでのやり取りができるようになる	ホテルでのやり取りの仕方を学び練習する。
2	【海外出張】レストランで注文ができるようになる	レストランでの注文の仕方を学び練習する。
3	【海外出張】交通機関の利用・食事の買い出し等ができるようになる	交通機関の利用や食事の買い出しなどを練習する。
4	1～3回目 【海外出張】 の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	【打ち合わせ】商談を行えるようになる	商談の仕方を学びペアで練習する。
6	【打ち合わせ】お客様の予約を取れるようになる	お客様の予約の取り方を学びペアで練習する。
7	同僚とスモールトークすることができるようになる	同僚とスモールトークできるように練習する。
8	5～7回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	苦情を言うことができ、対処することができるようになる	苦情の伝え方と対処方法を学び練習する。
10	面接の対応ができるようになる	面接対応の仕方を練習する。
11	仕事を依頼し、支持することができるようになる	仕事を依頼し、指示できるようになる練習をする
12	9～11回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
13	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	新装版 即戦力がつくビジネス英会話
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語、Business as Usual
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	TOEIC対策Ⅳ		（ NKT24D ）
講義名（コード）	TOEIC対策ⅣB		（ NKT24DB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	TOEIC600点をを目指す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を知り、基礎を復習しながら確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文などの音読練習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	リーディングパートの模試問題を解く	リーディングパートの模試問題を解く。
2	Part5の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part5の復習。
3	Part6の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part6の復習。
4	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
5	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
6	リスニングパートの模試問題を解く	模試問題Part1の復習。
7	Part1の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part2の復習。
8	Part2の解答と解説が理解できるようになる	過去問題を通して自分の達成度を判断し、これからの勉強法を考える。
9	Part3の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3の復習。
10	Part3+4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3+4の復習。
11	Part4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part4の復習。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	世界一分かりやすいTOEIC 総合模試600点突破レベル、新装版TOEIC L&R TEST 出る単特急金の1000問
参考文献・資料等	
備考	

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	TOEIC対策Ⅳ		（ NKT24D ）
講義名（コード）	TOEIC対策ⅣC		（ NKT24DC ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	基本的な英語の文法とコミュニケーション力を高めTOEICに備える
全体の内容と概要	文法・語彙・会話・リスニングを強化するための練習問題に取り組む
授業時間外の学修	自分の弱点を見つけ、それを強化するための問題をする
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	主語と動詞の関係を理解できる	Be動詞や三単現の動詞の変化に加えevery/each / a number of…が主語になった時の変化について学ぶ
2	リスニングに慣れる	会話の流れを聴きとる練習をする
3	助動詞の使い方を理解できる	助動詞やそれに準ずる have to/ be able to の使い方を学ぶ
4	リスニング問題に慣れる	短い簡単な文章のディクテーションをする
5	名詞・代名詞を理解し、使えるようになる	可算名詞・不可算名詞・代名詞を理解し実際に文章を作ってみる。
6	少し長めのリスニングに慣れる	長めの会話を聞く際に注意する点を学び、誰がどこで何をしたのかを聴きとる練習をする
7	形容詞・副詞の特徴を理解できる	形容詞・副詞の使い方を学ぶ 部分否定に慣れる
8	会話のリスニングに慣れる	会話・ショートトークを集中的に聞く練習をする
9	比較級・最上級を理解できる	比較級・最上級の構文を学び穴埋め練習問題に挑戦してみる
10	家事や日常生活に関するリスニングに慣れる	家事や日常生活に使う語彙や特別な言い回しを学んだ後リスニングをしてみる
11	接続詞の使い方や種類を理解できる	様々な接続詞を使って文章をつなげてみる
12	TOEICテストに挑戦してみる	リスニング・穴埋め・読解問題を通して解き、時間配分を考える
13	まとめ	復習・テストに備える
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等		
教科書	VERY EASY TOEIC 2 Compass Publishing	
参考文献・資料等	はじめて受けるTOEIC TEST 模試スピードマスター	
備考		